

昭和29年～令和6年

1954_2024

須賀川市制施行70周年記念誌

須賀川市
70年の
あゆみ

伝えたい。私たちの宝物



1954 ▶ 2024
70th
Sukagawa City

70 須賀川市制施行
周年
記念式典

contents

特集

市民協働

シビックプライドにあふれ、住み続けたいまちをめざして

「特撮」を世界に誇るべき文化に

特撮を世界に誇る文化として、須賀川市から発信していこう

「二人の円谷」を称えて

円谷英二、円谷幸吉の魅力と意志を後世に伝えていくために

本編

通史2014(平成26)年～2023(令和5)年

須賀川市の直近10年の歴史をプレイバック

災害と復興のあゆみ

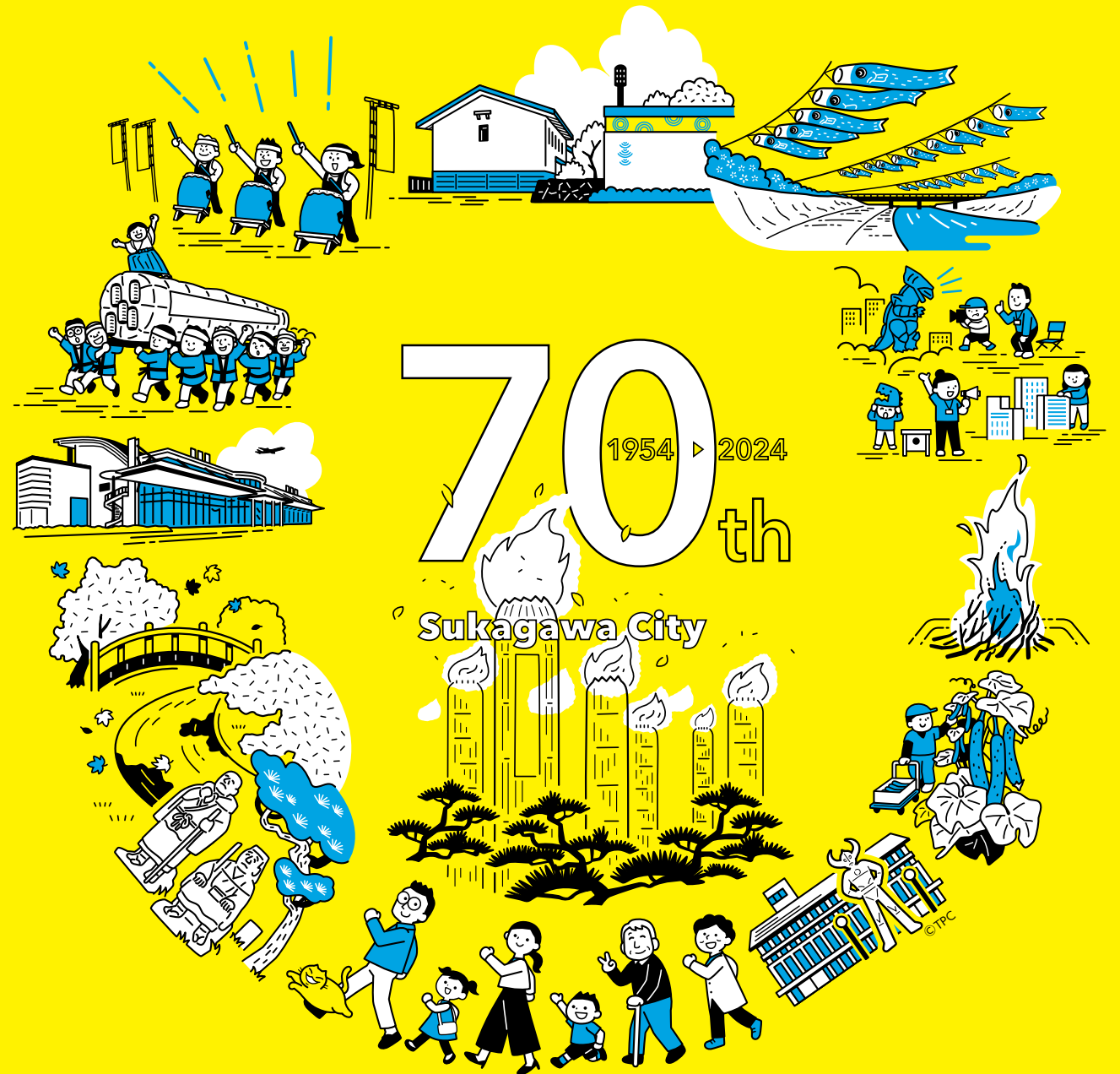
地震・水害により甚大な被害を受けながらも、その都度、市民一丸となって幾多の困難を乗り越えてきた須賀川市
当時の記録と後世に伝えたい教訓をここに

歴代市長、歴代議会正副議長 ふるさと須賀川の発展に寄与

福島県須賀川市

須賀川市制施行70周年記念誌

70th 1954 ▶ 2024



1954 ▶ 2024
70th
Sukagawa City

©TPC

須賀川市
70年の
あゆみ

昭和29年～令和6年
1954_2024

伝えたい。

私たちの宝物



須賀川市制施行70周年記念誌

皆さんの「力」が
このまちを「笑顔」に



市民協働

本市は、まちづくりの主体である市民の皆さんと支えあひながら、まちづくりを進めてきました。
すべての人にとって「住み続けたいまち」であるために、市民との協働によるまちづくりをこれからも続けていきます。



特集 ■ 「市民協働」皆さんの「力」がこのまちを「笑顔」に

特集 ■ 「市民協働」皆さんの「力」がこのまちを「笑顔」に

「協働」が形となった 市民交流センターtette

平成31(2019)年1月11日、市民交流センターがオープンしました。

設計の段階から、導入する機能や活用方法などについて、35回に及ぶ市民ワークショップを開催し、中学生から高齢者まで延べ約700人が参加。数多くの意見をできる限り反映させた市民交流センターは「市民との協働によるまちづくり」が一つの形となったものです。

また、市民の皆さんの経験や知識などを施設運営に生かす場として、管理運営協議会を設置したほか、ボランティア組織「tetteパートナーズクラブ」を設置。市民の皆さんに愛され、育てられる施設となっています。



市民との「協働」の歩み

平成26(2014)年度	7月～8月 「一緒につくる、考えるワークショップ」
	9月 パブリックコメントの実施
平成27(2015)年度	5月～12月 「一緒につくる、考えるワークショップ」
平成28(2016)年度	7月 第1回管理運営協議会、[一緒につくる、考えるワークショップ]
	10月 第2回管理運営協議会
	11月 「一緒につくる、考えるワークショップ」
	1月 第3回管理運営協議会
平成29(2017)年度	6月 第4回管理運営協議会
	7月 大学生等ワークショップ&現場見学会
	8月 第1回tetteパートナーズクラブ設立準備会
	10月 第2回tetteパートナーズクラブ設立準備会、第5回管理運営協議会
	11月 中・高校生ワークショップ&現場見学会、第3回tetteパートナーズクラブ設立準備会
	12月 第4回tetteパートナーズクラブ設立準備会
	2月 tette プレイベント
平成30(2018)年度	6月 第6回管理運営協議会
	11月 tetteパートナーズクラブ養成研修会
	1月 市民交流センターオープン



まちづくり 輝き放つ 市民の力

市民の皆さんの力は、本市のまちづくりにおける様々な場面で発揮されています。伝統行事「松明あかし」の継承、牡丹園や円谷幸吉メモリアルマラソン大会でのボランティア活動による観光振興やスポーツの推進。福祉や子育て、防災などの課題解決のための活動など、個人・団体それぞれが特性を生かしながら活躍しています。



地域コミュニティから 生まれる活気・安心

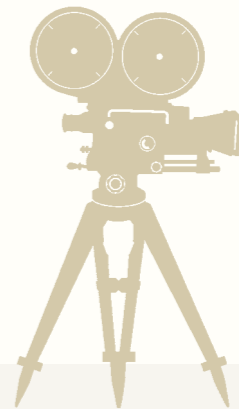
活 気あるまちづくりには、市民の皆さんによる地域コミュニティ活動が大切です。例えば、各町内会・行政区で開催する祭りやイベントなどは、人の結び付きを深め、活気あるまちづくりにつながっています。

また、参加する住民同士が協力して開催する「通いの場」の取り組みは、介護予防だけでなく、お互いの見守りにもつながり、生活に安心を与えています。

本市には昔から「結」と呼ばれる相互扶助の精神がありました。その精神は「協働の理念」として大切に受け継がれています。



「特撮」を 世界に誇るべき文化に



円谷英二監督の
故郷として

失われつつある
特撮資料

日本の特撮は、国内だけでなく、世界の映像文化にも大きな影響を与えてきましたが、CG技術の広まりとともに、活躍の場が失われつつあります。特撮には、現実には起こりえない情景を撮影するための柔軟な発想と技術が詰まっています。しかし、特撮で使用されたミニチュアをはじめとする資料は、撮影が終わるとそのほとんどが廃棄されてきました。

本市では、平成26(2014)年7月から関係者と連携して特撮関係資料の保存を開始しました。貴重な資料を収集、保存、修復、調査研究し、特撮を文化として残す活動は、円谷英二監督の故郷である本市だからこそ取り組むべき活動です。特撮文化を継承し、広めていく活動は、全国自治体の中で唯一の取り組みです。こうした活動を通して、市民の皆さんが本市に住み続けたいという誇りや愛着を育んでいきます。



© 東映 © 2022「シン・ウルトラマン」製作委員会 © 円谷プロ © TOHO CO., LTD.



© 円谷プロ



© TOHO CO., LTD.

須賀特撮アーカイブセンター



令和2(2020)年11月3日に開館。特撮に関連する貴重な資料などを、収集、保存、修復、調査研究し、特撮文化を推進するための拠点となる施設です。円谷英二監督が活躍した時代から現在までに、実際の撮影で使用された資料などを数多く保管しています。

ウルトラヒーローや怪獣がさらに身近な存在に

平成26(2014)年1月6日、ウルトラマンをデザインしたオリジナルナンバープレート1000の交付を開始しました。また、平成27(2015)年3月から松明通りに続々とモニュメントなどが登場。平成29(2017)年3月の新庁舎落成式では、ウルトラの父のモニュメントを披露しました。



特集 ■ 特撮のまちへ

2018

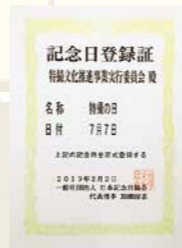
特撮文化推進事業実行委員会が設立

平成30(2018)年11月3日、特撮文化の推進のため、「特撮文化推進事業実行委員会」を設立しました。また、実行委員会設立にあわせて、特撮の魅力やアーカイブの重要性について語るシンポジウムが開催されました。



円谷英二ミュージアムが開館

平成31(2019)年1月11日、市民交流センター内に「円谷英二ミュージアム」が開館しました。また、特撮文化推進事業実行委員会では、円谷英二監督の誕生日である7月7日を「特撮の日」として一般社団法人日本記念日協会に申請し、登録されました。



© TOHO CO., LTD.

2021

特撮の魅力を発信

令和3(2021)年11月28日、特撮文化推進事業実行委員会による特撮ワークショップが開催されました。また、12月には円谷英二監督の生誕120年を記念した「生誕120年 円谷英二展」を開催し、多くの人に円谷英二監督の功績を伝えました。



撮影用クレーンに乗る円谷英二(1934) 国立映画アーカイブ所蔵

2022

第2の円谷英二監督を育成

令和4(2022)年6月18日、子どもたちに夢を持つことのすばらしさを伝えるとともに、夢を与えるために挑戦し続けた円谷英二監督の精神を受け継ぐ人材の育成に取り組み「すかがわ特撮塾」が開講しました。講座では、特撮映像に携わるプロを講師として、中学・高校生が年間を通して撮影技術、ミニチュア制作、映像編集を学んでいます。



2023

空想の力を育むまちを目指して

令和5(2023)年4月12日、株式会社円谷プロダクションとの協力体制を更に発展させていくため「まちづくり提携協定」を締結しました。協定に基づき、7月に市内の小中学生向けに「空想の力」を育むプロジェクトを行いました。



「M78星雲 光の国」と姉妹都市を提携

平成25(2013)年5月5日、ウルトラマンの故郷「M78星雲 光の国」と姉妹都市となりました。姉妹都市提携を契機に、ウルトラヒーローたちとともに本市の魅力を発信し、全国の皆さんとの交流が進みました。

特撮のまちへ

「M78星雲 光の国」との姉妹都市提携から10年。「特撮の神様」円谷英二監督の故郷として、特撮の魅力を伝えてきました。その歩みを振り返ります。

特撮への思いが形に

令和2(2020)年11月2日、アニメ・特撮資料の保存・アーカイブを目的とする団体「NPO法人アニメ特撮アーカイブ機構」と連携協定を締結しました。11月3日、須賀川特撮アーカイブセンターが開館し、特撮文化推進の新たなスタートとなりました。



連携協定締結式



円谷英二

Tsuburaya Eiji
1901 ~ 1970

日本の特撮技術の礎を築き、「特撮の神様」とも称されている円谷英二監督。

若かりし頃より撮影技術の研究に勤しんだ英二監督は、東宝株式会社を中心とした数々の作品で特殊技術を手掛け、「ゴジラの逆襲」(昭和30(1955)年)では初めて「特技監督」と冠されました。

昭和38(1963)年には株式会社円谷特技プロダクションを設立し、その名声を不動のものとなりました。英二監督の残した思いや熱意は、今でも多くの人々に影響を与えています。



© 円谷プロ

「二人の円谷」を称えて

功績を称えた「二人の円谷顕彰事業」

令和3(2021)年度

7月4日

テレビ番組「二人の円谷を知る」福島・須賀川市めぐり」放送

7月7日

須賀川市名誉市民章授与式



須賀川市名誉市民章授与式

7月4日～19日
円谷幸吉写真展

10月17日

円谷幸吉メモリアルホールの開示内容を拡充

12月18日～1月30日

生誕120年円谷英二展

令和4(2022)年度

4月28日～6月15日

「ウルトラマン」への手紙

6月18日

「すかがわ特撮塾」開講

7月10日

「シン・ウルトラマン」上映会

9月20日

円谷幸吉メモリアルホール紹介動画公開

10月3日～2月28日

円谷幸吉メモリアルホール所蔵品データ化

11月20日

ウルトラセブン上映会&トークショー

1月15日

ウルトラマンアーカイブスプレミアムシアター

令和5(2023)年度

4月1日

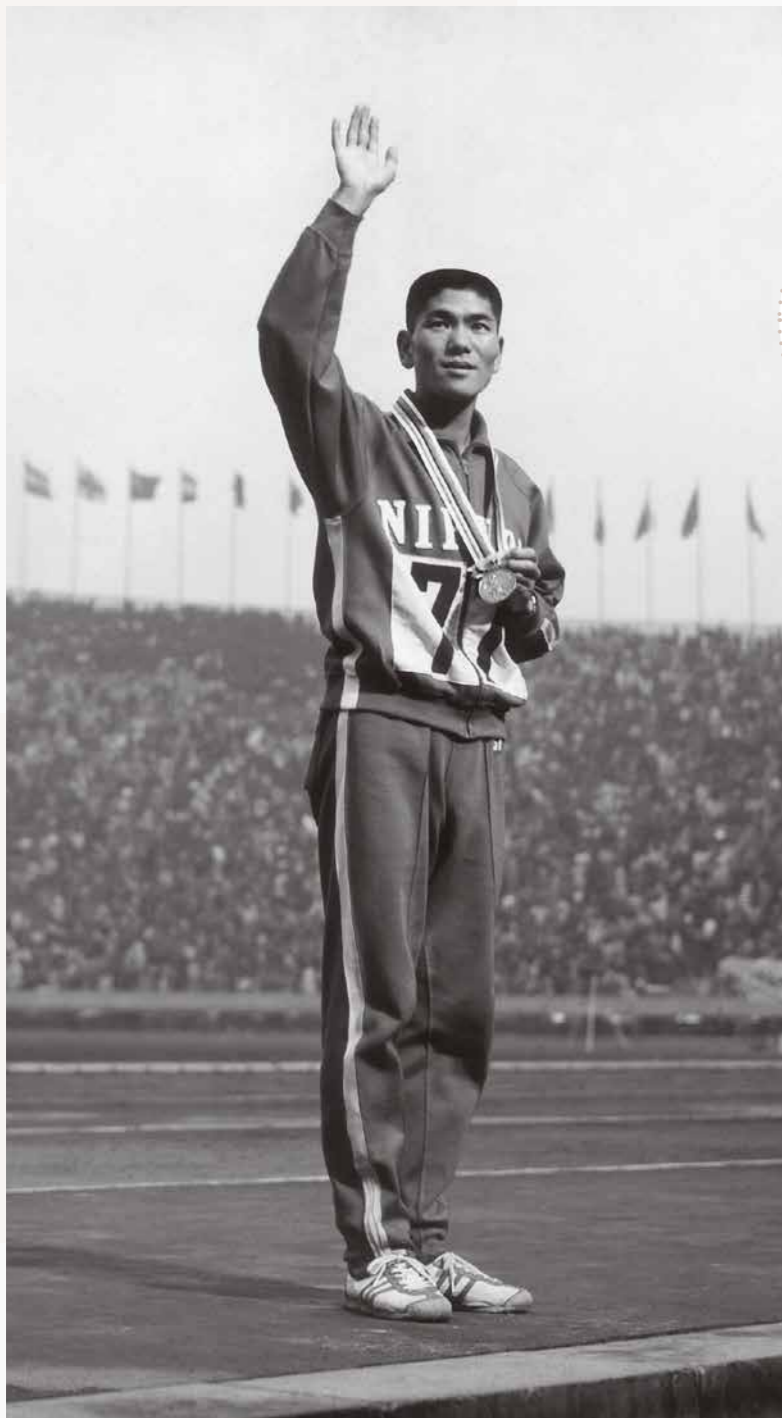
須賀川アリーナの名称を「円谷幸吉メモリアルアリーナ」に変更

4月12日

株式会社円谷プロダクションと「まちづくり提携協定」を締結



「二人の円谷」を通して本市の魅力伝える須賀川事典



円谷幸吉

Tsuburaya Kokichi
1940 ~ 1968

昭和39(1964)年に開催された東京オリンピックのマラソン競技で銅メダルを獲得し、当時低迷していた日本陸上競技界の救世主となった円谷幸吉選手。

毎年10月には幸吉選手の偉業をたたえる「円谷幸吉メモリアルマラソン大会」が開催され、全国各地から多くのランナーが参加します。

近年では、本市出身のランナーが国内を飛び越え世界の舞台でも活躍するなど、幸吉選手のレガシーが今もふるさとの人々に受け継がれています。





須賀川市
70年の
あゆみ

通史 2014 (平成 26) 年～ 2023 (令和 5) 年

昭和 29 年 3 月に誕生し、市制施行から 70 周年を迎える須賀川市
 創造的復興を目指した直近 10 年の歩みを中心に振り返る
 選ばれるまち、そして、住み続けたいまちへ—



昭和 29 年～令和 6 年
1954_2024
 須賀川市制施行 70 周年記念誌

伝えたい。私たちの宝物

contents

特集

「市民協働」…………… 2
 — 皆さんの「力」がこのまちを「笑顔」に —

「特撮」を世界に誇るべき文化に …… 6

「二人の円谷」を称えて …… 10

本編

通史 2014 (平成 26) 年～ 2023 (令和 5) 年 …… 13

本市を襲った自然災害の脅威 …… 34

創造的復興そして次の 10 年へ …… 36

須賀川市大年表 …… 38

歴代須賀川市長／歴代須賀川市議会正副議長 …… 46

発刊のことば …… 47



市民の皆さんと市制施行60周年をお祝い

市民とともに還暦をお祝い 市制施行60周年記念式典

須賀川市は、昭和29年3月31日、岩瀬郡須賀川町、浜田村、西袋村、稲田村と石川郡小塩江村の1町4カ村が合併し、市制がスタートしてから、平成26年3月30日をもって還暦(満60歳)を迎えました。

3月28日に「市制施行60周年記念式典」を行い、この晴れの日を祝うために、約800人が文化センターに足を運びました。多くの市民ボランティアが参加し、受付、会場案内、司会進行、手話や呈茶などに協力しました。

式典では、相楽新平元市長をはじめ、過去10年の市勢の発展に寄与された94の個人・団体に感謝状を贈呈しました。

また、松明太鼓小若組とシニアチームが演奏を披露し、式典を盛り上げたほか、平成6年に誕生して20歳となったポータンに、感謝とこれからの活躍を祈念して橋本市長から成人証書が



みんなで作るモザイクアート(10月12日開催)

授与されました。

この年は25の記念事業が行われ、中でも市制施行60周年記念事業実行委員会が企画した長沼と岩瀬の名所を巡るウォークラリーや、市民の皆さんの笑顔の写真を組み合わせ須賀川マップを作成するモザイクアートは、皆さんの思い出に残るイベントとなりました。

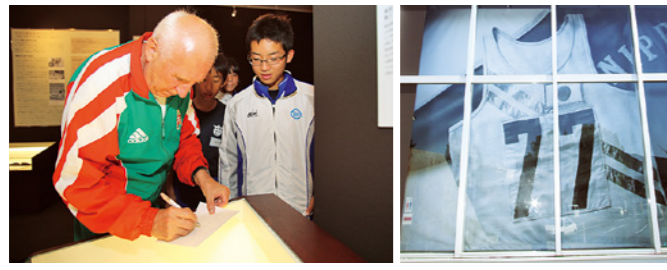
栄光のメダリストの軌跡 円谷幸吉メモリアルホールが リニューアルオープン

10月18日「円谷幸吉メモリアルホール」が、リニューアルオープンしました。

展示内容を東京2020オリンピックの開催に沿った内容とし「円谷幸吉からアスリート円谷幸吉へ」「人間円谷幸吉」「アスリート円谷が残したものを未来へ」の3つのコーナー

を設け、その中で円谷幸吉選手が活躍した1964年の東京オリンピックを紹介しました。

円谷幸吉選手の関係者や、陸上競技関係者のほか、多くの市民が訪れ、東京2020オリンピックを身近に感じられる機会となりました。



1964年の東京オリンピック男子マラソン ハンガリー代表のシュトー・ヨーゼフさんも来館した円谷幸吉メモリアルホール



各種スポーツ大会の会場として多くの市民に利用されています

市民の健康を推進 市中央体育館が オープン

東日本大震災の復旧・復興事業として、旧並木町体育館跡地に建設を進めていた「須賀川市中央体育館」が完成し、7月11日にオープニングセレモニーを行いました。

「須賀川市中央体育館」の名称は、市民の皆さんに親しまれるよう公募し、応募総数95件の

中から採用しました。

施設の延べ床面積は、1884平方メートルで、その内アリーナ面積は1020平方メートルです。これはバレーボールのコートが2面取れる広さで、ほかにもバスケットボールやバドミントンなどの屋内スポーツを楽しむことができます。

環境に優しい太陽光発電設備と防災倉庫を設置し、防災施設としての機能も兼ね備えています。

平成26年の主な出来事

Sukagawa 2014



1月 原付バイク用のウルトラマンナンバーを交付



4月 防災行政無線を開局
市内全域 197カ所に設置

出生届、転入届を提出した人に、ウルトラの父からのメッセージカードの贈呈を開始



7月 翠ヶ丘公園わんぱく広場がリニューアルオープン(写真②)

市中央体育館がオープン(写真③)



8月 水道お客さまセンターを開設

市教育委員会所管のバス「ぼたん号」「牡丹エンゼル号」にウルトラマンのラッピングを施し、運行を開始(写真④)

9月 市制施行60周年記念まちづくりシンポジウム「イメージアップ戦略によるまちづくり」

10月 市公式フェイスブックページ、ポータンフェイスブックページを開設

第三中学校60周年記念式典
円谷幸吉メモリアルホールがリニューアルオープン

住んでみたいと思えるまちへ 「市人口ビジョン」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定

10月30日「市人口ビジョン」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

「市人口ビジョン」は市の人口の現状分析と将来展望を踏まえた、目指すべき目標人口を示したものです。人口ビジョンの対象期間は、国と合わせ2060年までとし、東日本大震災の影響を考慮しながら人口を推計しました。2040年で人口7万人、2060年で人口6万人の維持を目標としています。

また「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は「市人口ビジョン」に示した目標人口の維持を具体的に進めていくため策定しました。総合戦略は、2015年度から2019年度までの5カ年で、4つの基本となる柱ごとに基本目標と基本的方向、施策戦略で構成しています。

これらに基づき、人口減少の抑制に努めながら、地域経済の

活性化、持続的かつ安定的な地域社会の維持・発展に向けて、市民との協働によるまちづくりを着実に進め「将来とも子どもたちが住んで良かった、住んでみたいと思えるまちづくり」を目指しています。



青空の下、拍手に包まれて 山寺池公園が完成

平成22年度から整備を続けてきた「山寺池公園」が完成し、4月2日にグランドオープンセレモニーを行いました。

テープカットの後、西袋第一小学校の6年生による鼓笛パレードが行われ、山寺池公園の完成をお祝いしました。

東日本大震災の教訓を生かし、緊急用耐震性飲料水貯水槽

を四阿の地下に設置し、断水時の給水所として利用できるようにしました。そのほか、防災備蓄倉庫の設置や、災害時対応マンホールトイレ、かまどベンチ、1万2千800平方メートルの多目的広場などを整備し、災害時の一時避難場所としての機能も確保しました。



山寺池公園グランドオープンセレモニー

平成27年の主な出来事

Sukagawa 2015



3月 ウルトラヒーローのモニュメントを松明通りに設置 (写真①)

災害公営住宅「馬町団地」の入居開始

市合併10周年記念式典



4月 長沼東部コミュニティセンターがオープン

山寺池公園グランドオープンセレモニー

藤沼温泉「やまゆり荘」が営業を再開 (写真②)



5月 福島レッドホープスの公式戦が、いわせグリーン球場で開催 (写真③)

秋篠宮皇嗣同妃両殿下が本市を御視察 (写真④)



7月 災害公営住宅「東町団地」の入居開始

8月 市議会議員一般選挙

須賀川一小児童クラブ館が開館

10月 長沼中学校統合50周年・新校舎落成記念式典

「市人口ビジョン」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定

11月 ウルトラヒーローのモニュメントを松明通りに新たに4体設置



相楽新平元市長に感謝状を贈呈

3地域の一体感を再認識 市合併10周年記念式典

平成17年4月1日に須賀川市、長沼町、岩瀬村の3市町村が合併してから10周年の節目の年を迎え、3月26日に「市合併10周年記念式典」を行いました。式典には、約400人が出席し、この記念すべき日が迎えられることを喜び合いました。

橋本克也市長が、平成18年のふくしま駅伝での初優勝、東日

本大震災からの復興などに触れ「合併して良かった、これからも住み続けたいと実感できるまちづくりを市民とともに進める」と、式辞を述べました。

また、相楽新平元市長をはじめ、3市町村の合併と3地域の一体感の醸成に尽力された172人の皆さんに感謝状を贈呈したほか、松明太鼓の演奏や、子どもたちによる合唱が披露されました。





毎年訪れる人たちの目を楽しませてくれる須賀川牡丹園



悠久の時を経て咲き誇る 牡丹園発祥250年

須賀川牡丹園は発祥から250年を迎え、5月11日、牡丹園発祥250年記念式典を行いました。樹齢200年を超える貴重な在来古木の牡丹が今も美しく咲き、290種・7000株の牡丹が訪れる人たちを魅了しています。

牡丹園は、明和3（1766）年、須賀川の薬種商・伊藤祐倫が、薬用として撰津国山本村（現在の兵庫県宝塚市）から、牡丹の苗木を持ち帰り栽培したことが始まりです。

牡丹園は伊藤祐倫から綿糸商・柳沼新兵衛に譲られます。牡丹園を語る上で欠かせない人物が、園主二代目新兵衛の長男・柳沼源太郎です。源太郎は牡丹をこよなく愛し、牡丹栽培に励み、昭和7年、須賀川の牡丹園は、国の名勝に指定されました。

また、俳人でもあった柳沼源太郎が、親しい俳人を招いて



余情的な雰囲気を出す牡丹焚火

行った牡丹の古木の焚火は、次第に俳人だけでなく、歌人、文人も集うようになり「牡丹焚火」として今に受け継がれています。牡丹焚火は、昭和53年、講談社発行の「俳句歳時記」の冬の季語として収載されました。現在、この牡丹焚火は牡丹の古木や枯れ枝を焚いて供養する初冬の風物詩として、毎年11月の第3土曜日に牡丹園内の設立記念碑前で行われています。また、焚かれる古木が放つ香りがゆっくりと漂う様子は、平成13年、環境省の「かおり風景100選」に認定されました。

メダリストの偉業を次世代へ 円谷幸吉とオリンピックメモリアルシンポジウム

3月19日、円谷選手の偉業をたたえるとともに、次世代へ伝え、東京2020オリンピック・パラリンピックへの機運を高めるため「円谷幸吉とオリンピックメモリアルシンポジウム」を文化センターで開催しました。

原健二さん、バルセロナオリンピック銀メダリスト・アトランタオリンピック銅メダリストの有森裕子さんらと交えてのパネルディスカッションが行われました。

円谷選手との交流や功績を称える話のほか、オリンピックマラソン競技の日本代表として活躍された皆さんのお話が聞ける貴重な機会となりました。



選手たちの思いが生ので届けられたシンポジウム



図書館ボランティアの皆さんに感謝状を贈呈した記念式典

蔵書数は開館時の348倍に 市図書館開館100周年記念式典

大正4年に須賀川町立図書館として誕生した市図書館は、開館100周年を迎えました。2月20日、市図書館開館100周年記念式典を行い、これまで図書館事業にご尽力いただいた読み聞かせボランティアの皆さんや、図書館ボランティアの皆さんに感謝状を贈呈しました。

また二人の円谷が見上げた須賀川の空と題して、小説家・増山実さんによる講演会が行われました。

記録が残る大正7年の蔵書数は719冊、閲覧者1428人で、市民交流センターに移転後、令和4年度の蔵書数は約25万冊、貸出し冊数は約33万冊となっています。令和4年10月からは電子図書館もスタートし、市民の皆さんから愛される図書館となっています。

平成28年の主な出来事

Sukagawa 2016



- 1月 マイナンバーカードの交付が始まる
- 2月 市図書館開館100周年記念式典
- 3月 円谷幸吉とオリンピックメモリアルシンポジウム



災害公営住宅「弘法坦団地」「山寺北団地」の入居開始。（「馬町団地」と「東町団地」を含めた全100戸の整備が完了）

- 4月 大東こども園が開園



熊本地震の被災地に職員を派遣（写真①）

- 5月 牡丹園発祥250年記念式典
- 7月 橋本克也氏が市長無投票当選（3期目）（写真②）



吉田信一選手がリオデジャネイロパラリンピック車いす卓球競技に出場（写真③）

- 9月 秋父宮記念スポーツ博物館須賀川市巡回展
- 10月 藤沼湖の湖底を歩く会（写真④）

- 11月 ウルトラヒーローのモニュメントを公立岩瀬病院前の通りに新たに3体設置
- 市民交流センターの愛称「tette」を発表



第二中学校合唱部の皆さんが美しい歌声を披露した新庁舎落成式

復興のシンボル完成 新庁舎落成式

3月30日、東日本大震災で被災した庁舎の再建を進めていた新庁舎の落成式を行いました。新庁舎1階「みんなのスクエア」で、関係者や来賓など約150人が出席し、橋本克也市長から施工業者4社に感謝状が贈られました。また、第二中学校合唱部の皆さんが美しい歌声を披露。歌声が新庁舎内に大きく響き渡り、本市の復興は、子どもたちの限らない未来とともにあることを感じさせるものとなりました。

4月8日・9日には、市民を対象にした内覧会を行い、約700人が参加しました。参加した皆さんは、ウルトラ窓口や各フロアの説明を受けながら見学。新庁舎へ、市民の皆さんからの期待が寄せられる日となりました。



市民を対象にした新庁舎の内覧会

各種窓口を集約し、新たにコンシェルジュステーション(総合案内)やパスポート窓口を配置。利用しやすい庁舎に生まれ変わりました。

新庁舎の完成は、復興から発展、そして、「選ばれるまちすかがわ」の実現に向けた、新たなチャレンジへのスタートとなりました。

全国とつないだ絆 奇跡のあじさい植樹祭

「奇跡のあじさい」とは、東日本大震災で決壊した藤沼湖の湖底を歩いた商工会関係者の皆さんが、自生するヤマアジサイを発見し命名したものです。奇跡のあじさいを復興のシンボルに位置付け、全国から里親を募集し、株分けされた奇跡のあじさいは、北は北海道、南は沖縄まで広がりました。

「奇跡のあじさい植樹祭」が行われ、全国の里親に育てられた奇跡のあじさいが故郷の本市に戻り、大切に植えられました。植樹祭には地元の人たちに加えて全国からも集まり、約1000人が参加しました。植樹のほか、長沼中学校の生徒たちが合唱を披露し、復興への思いを伝えました。



復興への思いを込めた「奇跡のあじさい植樹祭」



安心して子育てできる環境へ

笑顔あふれる未来へ 5歳児の保育料・授業料を無償化

4月から、市内在住の5歳児に対し、公立・私立を問わず全ての保育所・こども園の保育料、幼稚園の授業料を無償化しました。

全ての5歳児が等しく幼児教育・保育を受けることができる環境を整備することで、5歳児から中学校までの10年間を義務

教育と捉えた、幼小中の連携を推進しました。

5歳児の保育料・授業料の無償化は、平成21年度から開始した「こども医療費助成制度」(小学6年生までの子ども医療費を無料化)と併せて、子育て中の家庭への経済的な負担軽減や子育て世代が安心して子どもを産み育てることができる環境整備となりました。

平成29年の主な出来事

Sukagawa 2017



- 1月 藤沼ダムで試験放水開始
- 3月 市総合計画策定条例を制定
新庁舎落成式
- 4月 5歳児の保育料・授業料を無償化
第三西袋児童クラブ館が開館
市立白鳩保育園が公私連携型保育所に移行
[須賀川市史第8巻現代4]を発行
藤沼ダム農業用水の供給再開
国道118号松塚バイパスが開通(写真①)
- 5月 新庁舎が開庁
市役所窓口でパスポート交付を開始
市消防団が第11回東北水防技術競技大会で最優秀賞を受賞(写真②)
- 6月 市消防団初の女性消防団員に辞令交付
都市計画道路須賀川駅並木町線本町区竣工式
奇跡のあじさい植樹祭
- 10月 東西循環バスの土曜日運行を開始(写真③)
第一中学校創立70周年記念式典
西袋中学校創立70周年記念式典
- 11月 イタリアのファーラ・フィリオールム・ペトリ市の副市長が来庁(写真④)
第二小学校新校舎落成・創立110周年記念式典



希望に満ちた魅力あるまちづくりを目指しました



伝統行事を通して俳句文化を普及 「松明あかし」が冬の季語として俳句歳時記に収載

430余年前の悲運を偲ぶ本市の伝統行事「松明あかし」。長さ10メートル、重さ3トンもの大松明を若衆が担いで街中を練り歩き、五老山に建てられた松明の炎が、松明太鼓のとどろきに揺れながら天を焦がします。その松明あかしは、角川書店が発行した「俳句歳時記第五版・冬」に新たに収載され、冬の季語になりました。桔槔吟社をはじめ、俳句関係者の永年にわたる尽力により実現したものと

です。俳句歳時記に収載されるのは、県内の行事などでは「野馬追」と本市の「牡丹焚火」に続き三つ目となりました。翌年には、松明あかしの俳句歳時記収載を記念し、翠ヶ丘公園内に江持石製の高さ約2メートルの記念碑が建てられました。松明あかしの俳句歳時記の収載は、市の俳句文化が更に発展する契機となりました。



冬の季語となった松明あかし

平成30年の主な出来事

Sukagawa 2018



1月 中学生による模擬議会を初開催(写真①)



3月 南部地区都市再生整備計画が地方再生モデル都市に選定

4月 市第8次総合計画「まちづくりビジョン2018」がスタート

子育て世代包括支援センター「てくてく」がスタート

大黒池防災公園オープンセレモニー(写真②)

小中一貫教育校稲田学園が開校



7月 大阪北部地震の被災地(豊中市)へ職員を派遣

在宅医療・介護連携拠点センターを開設

8月 市民交流センター落成式

須賀川二小児童クラブ館が開館

9月 ムシテックワールドの来館者が100万人を突破(写真③)

10月 山寺土地区画整理事業竣工式

全日本合唱コンクールで第二中学校が金賞を受賞(写真④)

11月 第二中学校創立70周年記念式典

12月 中央公民館が閉館



市民活動の拠点となった中央公民館

46年の歴史に幕 中央公民館が閉館

中央公民館が、市民交流センターに機能を移転するため、12月28日をもって、閉館しました。46年間、延べ約200万人以上にご利用してきた中央公民館は、本市の市民活動の拠点として、大きな役割を果たしてきました。閉館を前に、12月8日、中央

公民館の閉館イベントを行い、利用団体のステージ発表や作品展示などで大いににぎわいました。また、中央公民館壁面への寄せ書きには、利用者の皆さんからの感謝のメッセージが数多く寄せられました。参加した皆さんは、中央公民館での思い出話に花を咲かせました。こうした想いは市民交流センターへと引き継がれています。

あらゆる人に「選ばれるまち」へ 市第8次総合計画「まちづくりビジョン2018」がスタート

人口減少や少子高齢社会の進行、大規模自然災害への危機管理意識の高揚、ICTの進展など、社会環境が変化する中、4月1日、まちづくりの指針となる市第8次総合計画「まちづくりビジョン2018」がスタートしました。

アンケートやパブリックコメントにより、市民の皆さんから幅広く意見をいただきました。総合計画は、まちづくりの基本的な指針であり、市政経営の基本方針となることから、市の最上位計画として明確に位置付けるため、平成29年3月に「須賀川市総合計画策定条例」を制定しました。第8次総合計画は、この条例に基づく初めての計画となります。



第8次総合計画では、将来都市像を「選ばれるまち」とともに歩む自治都市すかがわ」としました。協働の理念を基本に据え、先人たちが築き上げてきた「市民自治の精神」を受け継ぎ、ふるさとへの愛着と誇り「シビックプライド」を醸成しながら「ともに歩む自治都市」として、あらゆる人に「選ばれるまち」を目指します。

策定に当たっては、市内9カ所での地域懇談会や岩瀬管内5つの高校で「高校生の須賀川創生ミーティング」を開催して、意見交換を行うとともに、市民

市民文化復興のシンボル誕生 市民交流センター tette がオープン

1月11日、震災により甚大な被害を受けた市街地中心部の再生・活性化の中核施設として、また、市民文化復興のシンボルとして、市民交流センターがオープンしました。

市民交流センターは、設計の段階から、導入する機能や活用方法などについて、35回に及び市民ワークショップを開催し、中学生から高齢者まで延べ約700人が参加しました。数多くの意見をできる限り反映させ「市民との協働のまちづくり」が一つの形となりました。

愛称の「tette」は、応募総数1317件から選ばれたもので「みんなが手と手をつなぎ笑顔があふれるように」との想いが込められています。

11日に行ったオープニングセレモニーでは、観光牡丹大使でバイオリニストのNAOTOさんによるミニコンサートなど



ウルトラFMが開局

も行われ、市民交流センターのオープンに花を添えました。また、市民交流センター内にスタジオを持つ須賀川地域コミュニティFM(愛称・ウルトラFM)が開局しました。旬なまちの話題を地元パーソナリティが届け、暮らしに役立つ身近な情報などを毎日「聞く」ことができる本市の新しい情報手段となりました。

須賀川市を直撃 令和元年東日本台風(台風第19号)による甚大な被害

10月12日の夜、令和元年東日本台風が福島県を通過し、本市では、阿武隈川や釈迦堂川流域を中心に、甚大な被害をもたらしました。12日の午前8時から13日の午前1時までの17時間の総雨量は、白河地点で368.5mmを観測。短時間の記録的な大雨となり、阿武隈川で過去最高水位となる9.61メートル、釈迦堂川でも6.77メートルの水位を観測しました。

市内各所で河川からの越水や内水はん濫による浸水被害が発生し、1062棟(1628世帯)の住家が床上・床下浸水に見舞われ、多くの市民が被災し



甚大な被害をもたらした令和元年東日本台風

ました。また、農業・商工業・土木関連の被害の総額は約80億円となりました。そのような中、県内外から延べ1158人の災害ボランティアが訪れ、被災住宅での家財の運び出しや泥上げなどを支援していただきました。さらに、他自治体からの職員派遣、災害時の支援・協力協定締結自治体や企業からの物資提供、市一般廃棄物収集運搬委託業者をはじめ、市建設業者協議会、陸上自衛隊による災害ごみの収集など、多くの方に協力を得ながら、復旧・復興が進められました。

平成31年・令和元年の主な出来事 Sukagawa 2019



1月 市民交流センターtetteがオープン・ウルトラFMが開局
「こおりやま広域連携中枢都市圏」形成連携協約を締結



2月 アニメツーリズム協会から県内初の「アニメ聖地」認定プレートを受贈(写真①)
大東小学校統合50周年記念式典



3月 第2期中心市街地活性化基本計画が国の認定を受ける
4月 市役所防災広場の供用開始
須賀川地方保健環境組合の新しいごみ処理施設が稼働(写真②)
台湾定期チャーター便が新規就航(写真③)



5月 岩瀬公民館が岩瀬市民サービスセンター内にリニューアルオープン
ぼたん児童クラブ館が移転オープン
観光協会と物産振興協会が統合し、市観光物産振興協会が発足
7月 半世紀振りに「サルビアの道」が復活(写真④)
8月 市議会議員一般選挙(無投票)
10月 保育施設などに通う3～5歳児を対象に市独自の給食費無償化がスタート
令和元年東日本台風
うつみね児童クラブ館が移転オープン
11月 第三小学校創立60周年記念式典



災害時にも活用できる庁舎西側の市役所防災広場

災害応急対策の機能を強化 市役所防災広場の 供用開始

4月1日、東日本大震災で被災した庁舎の再建と合わせて整備を進めていた「市役所防災広場」の供用を開始しました。市役所防災広場は、庁舎西側に位置し、平常時は「市民の憩いの場」として利用し、災害時は、一時避難場所や支援の受け入れ場所として活用します。



待望の市民交流センター tette がオープン



仕事や学校生活の中に「新たな生活様式」が浸透していきました

ウイルスとの戦いから共存を目指して 新型コロナウイルス感染症の流行

2月、新型コロナウイルス感染症が全世界で猛威を振るい、私たちの生活や経済活動に深刻な影響を与え、全てが一変しました。

本市では、2月21日に新型コロナウイルス感染症対策本部を設置、2月27日に「市主催等イベント中止等及び市の施設の休館に関する指針」を定め、2月28日からは不特定多数の人が利用し、濃厚接触の可能性が高い施設を休館、一部の施設の貸館を中止しました。

4月16日、国から外出の自粛などを要請する「緊急事態宣言」が全国に発出されました。福島県は5月14日に解除されたものの、目に見えないウイルスに不安を抱く日々が続きました。

こうした中、社会経済活動を維持するため、マスクの着用、「三密」の回避、テレワークなど「新しい生活様式」での暮らしが始まりました。

市でも新しい生活様式を周知し、感染対策を呼び掛けたほか、地域外来（発熱外来）を緑の広場に開設、プレミアム付商品券「コロナに負けるな！ポータン商品券」を発行し、市民生活、社会経済活動を支援しました。

この年は学校行事をはじめ、見頃を迎えた須賀川牡丹園の休園、釈迦堂川花火大会の中止、松明を1本に限定しての松明あかしなど、毎年開催してきた市内の各イベントが中止または規模を縮小しての開催となりました。



各団体よりマスクなどを受贈



世帯をこえて学び愉しむ 風流のはじめ館が開館

俳聖・松尾芭蕉と旧知の仲である本市の俳人「相楽等躬」にちなみ、10月9日「風流のはじめ館」が開館しました。

風流のはじめ館は、東日本大震災で被災した「芭蕉記念館」の機能の継承と、幅広い世代が和文に親しみ、交流を通してにぎわいを生み出す場として誕生しました。

施設名称は、ワークショップで市民の皆さんから提案された名称案を基に決定。芭蕉が「おくのほそ道」紀行の途中で等躬を訪ね、みちのくの地に入った感慨について詠んだ「風流の初やおくの田植うた」を踏まえたものでもあります。

オープニングセレモニーでは、テープカットのほか、古寺山自奉楽保存会による「御田植え踊り」の披露、市民文化団体の皆さんによる呈茶、和楽器の演奏などが行われました。



和文化に親しみ交流する場に



市民の命を守る指令室

最新システムを完備 新消防指令センターの運用がスタート

4月から須賀川消防本部でコンピュータ機器と通信技術を駆使した新消防指令センターの運用がスタートしました。管内で発生した火災などの通報を受け、最適な出動部隊を編成し、迅速かつ正確な指令が行われます。

また、11月からは緊急通報システム「NET119緊急通報システム」が導入されました。「NET119緊急通報システム」は、聴覚や言語機能に障がいのある人向けの通報システムで、スマートフォンやタブレットを利用して、簡単な操作で素早く通報できます。

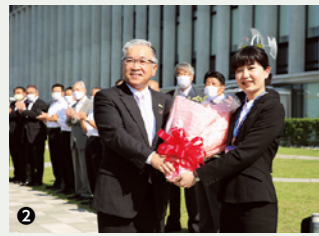
こうした最新機器やシステムの活用で、火災や自然災害での救命体制を支え、大切な命を守ることに繋がっています。

令和2年の主な出来事

Sukagawa 2020



2月 新型コロナウイルス感染症対策本部を設置



3月 JR水郡線川東駅の新駅舎が完成
「大町よってけ広場」から「円谷幸吉メモリアルパーク」へ(写真①)



4月 第2期市まち・ひと・しごと創生総合戦略がスタート
福祉まるごと相談窓口を開設
須賀川消防本部で新消防指令センターの運用がスタート
緊急事態宣言が全国へ拡大(福島県は5月14日に解除)



5月 阿武隈川堤防(浜尾遊水地西側)の本復旧工事が完了

7月 橋本克也氏が市長無投票当選(4期目)(写真②)

8月 博物館が開館50周年

9月 地域外来(発熱外来)を緑の広場に開設
大黒池防災公園に「土のうステーション」を設置

10月 すかがわ観光物産館「flatto」がオープン(写真③)
風流のはじめ館が開館
稲田公民館がリニューアルオープン(写真④)

11月 須賀川特産アーカイブセンターがオープン
1本だけの松明あかし

57年振りに聖火が須賀川に 東京2020オリンピック 聖火リレー

3月27日、新型コロナウイルス感染症の影響で延期となっていた東京2020オリンピックの聖火リレーが行われました。夏季オリンピックとしては、前回の東京オリンピックから57年振りに、聖火が本市を通過しました。1964年東京オリンピックのマロン競技で銅メダルを獲得した円谷幸吉選手ふるさとである本市にとって、再び聖火リレーが行われたことは、大変意義深いものでした。

今回の聖火リレーを彩ったのが「円谷幸吉・レガシーサルビアの会」による「サルビアの道」です。「サルビアの道」は、1964年東京オリンピックの聖火リレーで、円谷幸吉選手を応援しようと、母校である須賀川高校（現 須賀川創英館高校）の生徒会が行ったものです。

そして、東京2020オリンピックで「第2の円谷」として

世界へ羽ばたいたのが、本市出身の相澤晃選手です。7月30日、陸上競技男子1万メートルに出場し、市民へ勇気と感動を与えてくれました。

相澤選手の地元である長沼地域の皆さんで結成された相澤晃応援団や出身クラブの円谷フアンズなどの関係団体が、各会場をオンラインでつなぎ一緒に応援しました。



相澤選手を応援

コロナ禍をみんなと乗り越える 心に花を咲かせようプロジェクト

2月、新型コロナウイルス感染症の治療や感染予防に日々尽力されている医療機関、介護・障がい者施設従事者の皆さんへ、市民の皆さんから寄せられた感謝のメッセージとともに、応援の品を贈る「心に花を咲かせようプロジェクト」を行いました。

「大変な状況の中、コロナの脅威と戦ってくださり、本当にありがとうございます。これからも皆さんのことを心から応援しています」皆様、本当

にありがとうございます。みんなで心をひとつにこの難関を越えて、生きてゆきましょう」といった温かいメッセージ4300通が集まりました。

3月には、プロジェクトのお返しとして、市内90事業所850人の医療従事者などの皆さんからお礼のメッセージが届きました。

感謝の気持ちを贈られた医療従事者などの皆さんと、贈った市民の皆さんお互いの心にきれいな花が咲きました。



心に花を咲かせようプロジェクト

令和3年の主な出来事

Sukagawa 2021



- 2月 市公式 LINE 運用を開始
心に花を咲かせようプロジェクト
福島県沖を震源とする地震が発生



- 3月 東京2020オリンピック聖火リレー
- 4月 義務教育学校稲田学園が開校(写真①)
降霜で果樹 97ヘクタールに被害が発生



- 5月 新型コロナウイルスワクチンの集団接種を開始(写真②)
- 6月 降ひょうで野菜・果樹 41.5ヘクタールに被害が発生
- 7月 円谷英二監督、円谷幸吉選手に名誉市民章を授与
大黒池防災公園に市防災倉庫が完成
相澤晃選手が東京2020オリンピック陸上男子10000mの決勝に出場



- 8月 東京2020パラリンピック聖火フェスティバル(写真③)
- 9月 文化センターがリニューアルオープン
第一小学校創立150周年記念式典
- 10月 円谷幸吉メモリアルホールの展示内容を拡充
阿武隈小学校創立50周年記念式典
すかがわ国際短編映画祭が33年の歴史に幕(写真④)
- 12月 生誕120年 円谷英二展



住宅などに大きな被害が発生

マグニチュード7.3 福島県沖を震源とする 地震が発生

2月13日午後11時8分、福島県沖を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生。本市では最大震度6弱を観測しました。市災害対策本部では、関係機関とともに速やかに対応し、被害状況の調査や、避難所を開設しました。

り災証明書の交付件数は

2282件(全壊6件、大規模半壊9件、中規模半壊17件、半壊119件、準半壊532件、一部損壊1599件)、被災証明書の交付件数は370件(個人320件、事業者50件)となったほか、公共施設や道路農業施設、商工業なども大きな被害を受けました。

市では、早期の生活再建のため、災害見舞金や住宅の応急修理、市税の減免などの支援を行いました。





憩いの広場に自然と調和したカフェが完成

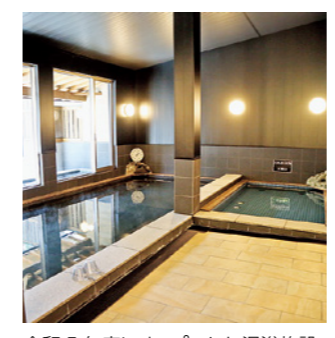
翠ヶ丘公園が新たな魅力ある公園に 県内初のパークPFI手法を 活用したカフェがオープン

翠ヶ丘公園は、まちなかにありながら約30ヘクタールの緑に囲まれた公園で、平成元年には「日本都市公園百選」に選ばれています。

市民の憩いの場として利用されてきた翠ヶ丘公園を、新たな魅力あふれる公園とするため、新しい整備手法である「パークPFI」を活用し、令和2年9月に基本協定を締結した(株)あおいと温浴施設等整備事業を進めてきました。

パークPFIとは、公園内に飲食店などの収益施設を整備し、その利益で公園を維持管理する事業者などを公募で選ぶ制度で、県内で初めての活用となりました。

11月、憩いの広場に飲食施設「Jadegreen cafe」がオープンしました。公園が持っている自然の魅力を生かすため、施設のデザインは周囲



令和5年度にオープンした温浴施設

の景観に優しく溶け込む外観とし、ユニバーサルデザインを積極的に取り入れることで、多くの人が快適に利用できる心地良い空間となっています。

令和5年4月には、公園の自然豊かなロケーションを生かした温浴施設「Sanna & Spa Green」もオープンしました。屋外イベントステージや園路、子どもたちが遊べる小川をはじめ、カフェ・温浴施設内には、公園利用者も利用できるトイレを完備し、更に利便性の高いにぎわいあふれる公園になりました。

マグニチュード7.4
福島県沖を震源とする
地震が再び発生



大量の図書が散乱した中央図書館

3月16日午後11時36分、令和3年2月に引き続き、福島県沖を震源とするマグニチュード7.4の地震が発生。本市では、最大震度5強を観測しました。市災害対策本部では、関係機関とともに速やかに対応し、被害状況の調査や、安全確認を行いました。

被災証明書の交付件数は159件(個人87件、事業者72件)となったほか、公共施設や道路、農業施設、商工業なども大きな被害を受けました。

市では、前年同様早期の生活再建のため、災害見舞金や住宅の応急修理、市税の減免などの支援を行いました。

県内外からファンが集まる 「アニメージュとジブリ展」開幕

9月17日から12月11日まで、文化センターで「アニメージュとジブリ展」一冊の雑誌からジブリは始まった」ふくしま須賀川展を開催しました。

この展覧会には、雑誌「アニメージュ」の誌面やアニメのセル画、ジオリマなど約200点が展示され、期間中に3万人以上が来場しました。訪れた人たちは、アニメージュの歴史とスタジオジブリの原点に触れ、アニメの世界に浸っていました。

展覧会、オープニングセレモニーのほか、関連イベントとして、文化センターでのジブリ映画の上映会、ジブリ作品に関連する絵画コンクール「すかがわみんなの美術館」、市内飲食店16店舗が趣向を凝らして展覧会とのコラボメニューを販売する「須賀川コラボメニュー」、市内の学校・音楽団体によるジブリやアニメージュ関連音楽のコンサートなどを行いました。



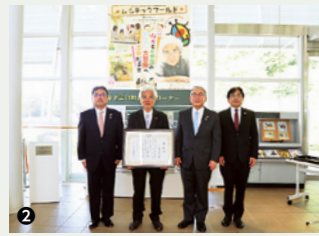
アニメージュとジブリ展と関連イベント

令和4年の主な出来事

Sukagawa 2022



- 1月 市成年後見支援センターを開設
- 2月 市SDGs推進協議会を設置
- 3月 福島県沖を震源とする地震が発生
- 4月 あおば循環バスが運行を開始
須賀川創英館高校が開校(写真①)



- 6月 すかがわ地方障がい者地域活動支援センター「ウィッシュ」を開設
降ひょうで野菜・果樹157ヘクタールに被害が発生
すかがわ特撮塾が開講
- 7月 養老孟司さんに市特別功労者表彰が贈られる(写真②)



- 「シン・ウルトラマン」の上映会と、監督・樋口真嗣さん、俳優・斎藤工さんによるスペシャルトーク(写真③)
- 9月 「アニメージュとジブリ展」一冊の雑誌からジブリは始まった」ふくしま須賀川展が開幕
全国自主怪獣映画選手権を本市で初開催(写真④)



- 市過疎地域持続的発展計画を策定
- 10月 須賀川桐陽高校60周年記念式典
- 11月 翠ヶ丘公園に飲食施設がオープン
- 12月 市民交流センターの来館者が200万人を達成



再び多くの笑顔が見られる一年に



学校行事も再開

徐々に市民生活が戻り各イベントが再開 新型コロナウイルス感染症が 5類感染症に移行

令和2年2月から新型コロナウイルス感染症が流行し、目に見えないウイルスとの戦いが始まってから3年。「緊急事態宣言」や「福島県非常事態宣言」などが発出され、何度も感染の拡大を繰り返す中、基本的な感染対策やワクチン接種などで、ウイルスと戦ってきました。

5月8日、新型コロナウイルス感染症の位置付けが2類相当から季節性インフルエンザなどと同様の5類に移行。マスクの着用が個人の判断になるなど、感染対策が緩和される中で、親しい人と会食を楽しむ姿や県外・海外へ旅行に行く人などの姿が見られるようになってきました。

徐々に市民生活が元に戻ってきたと実感できるようになり、これまで中止や規模を縮小して行っていた市内の各イベントも通常開催となりました。きつり



学校行事も再開

共につくる、住み続けたいまち 市第9次総合計画スタート・行政組織改編

4月から、5年間のまちづくりの指針となる市第9次総合計画「まちづくりビジョン2023」がスタートしました。将来都市像は「共につくる、住み続けたいまちすかがわ」とし、これまで取り組んできた市民との協働のまちづくりや、先人たちが築き上げてきた市民自治の精神を受け継ぎ、市への愛着と誇り「シビックプライド」にあふれ、全ての人にとって住み続けたいまちであることを目指しています。

計画策定に当たっては、新たな試みとして中学生ワークショップと市民ワークショップを開催。地域懇談会なども含め、多くの意見をいただきました。また、総合計画を実現するため市の組織の一部を改編し「市民協働推進部」「情報政策課」「総合交通政策係」「特撮文化推進係」を設置しました。総合計画の重要政策の一つである「市民協働によるまちづくりの推進」に取り組むため「公民館」を「コミュニティセンター」に変更し、機能の充実を図っています。



まちづくりの指針となる新たな総合計画がスタート



開港30周年となった福島空港

空からつながる絆 福島空港開港30周年

平成5年3月に開港した福島空港が30周年を迎えました。これまで福島県の空の玄関口として、観光をはじめ地域産業の伸展と人々の交流に大きく貢献してきたほか、東日本大震災時には、災害救助や救援物資の輸送などの役割を果たしました。30周年を記念して、3月に記念式典が行われたほか、9月に

は航空自衛隊アクロバットチーム「ブルーインパルス」とエアリースパイロット・室屋義秀さんによるエアショーが行われました。

また、1月にはベトナムからのチャーター便が運航され、国際チャーター便の運航は3年振りの再開となりました。

令和6年1月から台湾便が定期チャーター便として就航し、インバウンド需要に伴う、今後更なる利用が見込まれます。

令和5年の主な出来事

Sukagawa 2023



- 1月 すかがわシネマ開催
- 3月 福島空港開港30周年記念式典
社丹キャンペーンクルー ミス社丹時代も含めて38年の歴史に献写真①
- 4月 市第9次総合計画がスタート・市行政組織を改編
[文化都市すかがわ]推進戦略本部を設置



- 須賀川アリーナの名称を「円谷幸吉メモリアルアリーナ」に変更
- 降霜で果樹57ヘクタールに被害が発生
(株)円谷プロダクションと「まちづくり提携協定」を締結
- 翠ヶ丘公園に温浴施設がオープン



- 5月 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行
市カーボンニュートラル宣言
- 7月 18年振りに「NHKのど自慢」を開催(写真②)
十両昇進が内定した高橋力士が、市長を表敬訪問(写真③)



- 8月 市議会議員一般選挙
- 10月 白方小学校創立150周年記念式典
福島ファイヤーボンズの須賀川開幕戦(写真④)
仁井田小学校創立150周年記念式典
西袋第一小学校創立150周年記念式典
西袋第二小学校創立150周年記念式典
- 11月 長沼小学校創立150周年記念式典



積迦堂川のはん濫により浸水した牛袋町・卸町



下江持での救助活動



決壊した藤沼ダム本堤



激しく損壊した市役所

東日本台風の概要

発 生 日 時	令和元(2019)年10月12日~13日
水 位	阿武隈川の最高水位 9.61m
	積迦堂川の最高水位 6.77m
人 的 被 害	死者 3 名 (うち直接死 2 名、関連死 1 名)
家 屋 被 害	全壊 155 件 半壊 675 件
	一部損壊 232 件

本市を襲った自然災害の脅威

未曾有の被害をもたらした平成23(2011)年の東日本大震災。
 そして、東日本大震災からの復興・発展を目指していた本市を襲った令和元年の東日本台風。
 このほか、十数年の間に、度重なる自然災害が発生し、多くの苦難に見舞われました。



阿武隈川の越水により浸水した和田地区

東日本台風



第一小の崩れた校庭

東日本大震災

東日本大震災の概要

発 生 日 時	平成23(2011)年3月11日 午後2時46分
震 源 地	三陸沖深さ 24km
	マグニチュード 9.0 本市最大震度 6 強
人 的 被 害	死者 11 名 (うち直接死 9 名、関連死 2 名)
	行方不明者 1 名 軽傷者 1 名
家 屋 被 害	全壊 1,249 件 半壊 3,503 件
	一部損壊 10,557 件



創造的復興そして次の10年へ

東日本大震災から10年が経過し、創造的復興を目指した様々な事業が目に見える形で進んできました。
「選ばれるまち」から「住み続けたいまち」へ、
創造的復興からの「次の10年」という新たなステージへ歩みを進めていきます。

復興への歩み

平成23(2011)年	
12月20日	市震災復興計画を策定
平成24(2012)年	
7月20日	いわせニュータウンで除染を開始
平成27(2015)年	
3月19日	災害公営住宅「馬町団地」の入居開始
4月24日	藤沼温泉「やまゆり荘」が営業を再開
7月1日	災害公営住宅「東町団地」の入居開始
8月25日	第一小学校新校舎が完成 ❶
平成28(2016)年	
3月30日	災害公営住宅「弘法団地」「山寺北団地」の入居開始。災害公営住宅全100戸の整備が完了
平成29(2017)年	
4月24日	藤沼ダム農業用水の供給再開 ❷

5月8日	新庁舎開庁 ❸
8月3日	住宅地から除染土壌の搬出を開始
平成31(2019)年	
1月11日	須賀川市民交流センター tette がオープン ❹
4月1日	市役所防災広場の供用開始
令和2(2020)年	
5月31日	令和元年東日本台風で決壊した阿武隈川堤防(浜尾遊水地西側)の本復旧工事が完了 ❺
10月5日	令和元年東日本台風で浸水被害を受けた第一保育所が元の場所で開催 ❻
10月9日	風流のはじめ館がオープン ❷
10月10日	令和元年東日本台風で浸水被害を受けた須賀川アリーナが再開 ❸
11月3日	須賀川特撮アーカイブセンターがオープン ❹



1954

一九五四(昭和二九年)

- 3・31 須賀川町、浜田村、西袋村、稲田村、石川郡小塩江村が合併し、須賀川市が誕生
- 4・1 市消防団が発足、福祉事務所を設置
- 4・27 市制施行後初の市長選挙、岡部宗城氏が初代市長に当選
- 5・10 市制施行祝賀式典
- 5・22 市歌発表会
- 6・10 市章を制定

一九五五(昭和三〇年)

- 3・1 消防署を設置
- 3・10 岩瀬郡仁井田村が須賀川市に合併
- 3・29 市制施行後初の市議会議員選挙(小選挙区制・定数30)
- 4・1 県立須賀川第二高等学校が開校
- 5・15 釈迦堂川橋竣工式
- 9・12 第二中学校が新築移転
- 10・1 嘱託員設置条例を施行
- 12・27 絹本著色亜欧堂田善画像が県重要文化財に指定

一九五六(昭和三一年)

- 4・1 第二中学校が開校
- 4・8 岡部市長が死去
- 5・10 澤田二郎氏が市長無投票初当選
- 5・21 服部けさ顕彰碑除幕式

一九六三(昭和三八年)

- 1・30 須賀川地方衛生処理組合が設立
- 4・9 県立須賀川女子高等学校が開校
- 4・30 市議会議員選挙(定数26)
- 5・10 小塩江小学校新校舎に移転
- 12・2 須賀川地区(旧市内)の町名・字名変更認証

一九六四(昭和三九年)

- 2・28 仁井田簡易水道が完成
- 3・3 本市を含む常磐・郡山地区が新産業都市に指定
- 3・24 双式浮彫阿弥陀三尊来迎供養石塔が県重要文化財に指定
- 4・19 鈴木貞夫氏が市長初当選
- 9・30 東京オリンピック聖火リレー
- 10・2 市制施行10周年記念式典
- 10・21 円谷幸吉選手が東京オリンピックマラソン競技で銅メダル

一九六五(昭和四〇年)

- 2・15 須賀川地方衛生処理組合(し尿処理施設)が完成
- 3・5 上水道第一次拡張事業起工式
- 3・31 稲田小学校新校舎が完成
- 4・1 若葉児童館が開館
- 4・1 東山小学校・大東中学校が開校
- 4・10 須賀川広報を「広報すかがわ」に改称

一九六六(昭和四一年)

- 4・1 和田幼稚園が市に移管・開園
- 4・15 第一小学校新校舎第一期工事完成、5・6年生移転
- 6・29 台風第4号水害が発生
- 9・25 台風第26号水害が発生

- 6・1 地方財政再建特別措置法適用により財政再建団体に認定
- 12・1 第二保育所が開所(社会福祉法人新栄町厚生会から移管)

一九五七(昭和三二年)

- 1・12 財団法人須賀川牡丹園保勝会が設立
- 4・1 第一小学校に愛護字級を開設
- 5・1 国道4号が開通
- 6・15 市農業委員会が設立
- 9・1 国民健康保険全面实施
- 12・10 愛護育成会が発足

一九五八(昭和三三年)

- 3・18 首藤保之助氏が市に阿武隈考古館資料約5万点を寄贈
- 4・1 奨学資金貸与制度を開始
- 第二保育所が開所
- 都市公園条例を施行
- 文化財保護条例を施行
- 4・10 古戸の大火(住家40棟全焼)
- 8・1 蝦夷穴古墳が県史跡に指定
- 9・17 青少年問題協議会を設置
- 9・27 台風第22号水害が発生

一九五九(昭和三四年)

- 3・17 古寺山の松並木が県天然記念物に指定
- 3・29 市議会議員選挙(大選挙区制・定数30)

- 11・15 公立岩瀬病院本館が完成
- 12・10 仁井田中学校新校舎落成式

一九六七(昭和四二年)

- 2・1 石川郡大東村が須賀川市に合併
- 2・28 須賀川地方衛生処理組合(こみ焼却施設)が完成
- 4・1 大東幼稚園が開園
- 4・28 市議会議員選挙(定数30)
- 5・2 新栄橋竣工式
- 12・1 上水道第一次拡張事業落成式
- 12・8 桐文木彩漆友が県重要文化財に指定
- 12・31 東山小学校新校舎が完成

一九六八(昭和四三年)

- 2・3 国道118号開通式
- 4・10 鈴木貞夫氏が市長当選(2期目)
- 5・28 上人壇廃寺跡が国史跡に指定
- 9・9 市庁舎建設に着手
- 10・1 大東母子健康センターに助産所を併設
- 11・3 明治百年記念顕彰式典

一九六九(昭和四四年)

- 4・1 大東小学校が開校
- 5・30 和田大仏及び横穴古墳群を市史跡に指定
- 7・20 老人福祉センター(老人憩の家)が開館
- 10・1 岩瀬牧場の玉蜀黍貯蔵所を市有形文化財に指定
- 10・31 市庁舎が完成
- 11・1 消防署庁舎が新築移転

一九七〇(昭和四五年)

- 4・1 稲田・仁井田・小塩江・大東地区に出張所設置

- 3・31 羽鳥用水(浜田須賀川幹線用水)が完成
- 4・1 第二小学校が開校
- 10・1 翠ヶ丘公園が都市計画法による都市公園に指定

一九六〇(昭和三五)

- 3・31 財政再建団体から脱却
- 4・1 社会教育委員設置条例を施行
- 4・24 澤田二郎氏が市長当選(2期目)
- 11・28 関下簡易水道が完成

一九六一(昭和三六年)

- 4・6 子ども育成会連絡協議会が発足
- 4・25 第三小学校新校舎落成式
- 5・3 牡丹会館が完成
- 5・26 上人壇廃寺跡の発掘調査開始
- 6・28 台風第6号水害が発生(宇津峰大橋が流失)
- 12・18 市史編さん委員会を設置
- 12・22 第二中学校火災(3教室が半焼)

一九六二(昭和三七)

- 2・11 連合婦人消防隊が発足
- 4・1 諏訪町児童遊園地を開設
- 8・9 市体育館が完成
- 8・20 中部地区土地区画整理事業に着手
- 9・29 新安積土地改良区が設立
- 10・1 災害対策本部条例を施行

- 5・21 昭和天皇・香淳皇后両陛下行幸啓(牡丹園・市役所など)
- 8・1 県下初の市立博物館が開館
- 9・1 県中都市計画区域に指定

一九七二(昭和四七年)

- 2・12 須賀川商工会館が東町に開館
- 3・10 総合計画基本構想を策定
- 3・20 須賀川駅に初の特急列車が停車
- 4・1 牡丹台野球場が完成
- 4・25 市議会議員選挙(定数30)
- 8・31 台風第23号水害が発生
- 9・7 台風第25号水害が発生
- 11・1 西川土地区画整理事業に着手

一九七三(昭和四八年)

- 1・9 札幌冬季オリンピック聖火リレー
- 3・10 中央公民館が完成
- 3・22 青年県外研修派遣事業を初実施
- 4・1 阿武隈小学校が開校
- 4・10 澤田二郎氏が市長当選(通算3期目)
- 5・27 牡丹台庭球場が完成
- 6・21 降ひょう被害が発生
- 10・5 郡山地方広域市町村圏組合が設立

一九七三(昭和四八年)

- 3・9 勤労青少年体育センターが完成
- 3・31 図書館が新築移転
- 4・1 須賀川地方広域消防組合が設立
- 5・2 郡山地方土地開発公社が設立
- 7・1 部設置条例を施行(室4部制)
- 8・31 中部地区土地区画整理事業が完了
- 11・26 東北縦貫自動車道須賀川インターチェンジが開通



落成当時の市庁舎(S44)



円谷幸吉選手の故郷がい旋パレード(S39)



国道4号開通式(S32)



市制施行祝賀式典(S29)

- 1974 (昭和四十九年)
 - 2・1 稲田公民館が完成
 - 4・1 うつみね保育園、ぼたん児童館、稲田幼稚園が開園・開館
 - 5・7 古寺山自奉養が県重要無形民俗文化財に指定
 - 10・1 重度心身障がい者医療費が無料化
 - 11・20 市制施行20周年記念式典
 - 11・28 経済変動緊急対策協議会を設置(石油危機対策)
- 1975 (昭和五〇年)
 - 2・28 小塩江公民館が完成
 - 3・12 横山土地区画整理事業に着手
 - 4・1 ぼたん保育園、うつみね児童館、小塩江幼稚園が開園・開館
 - 4・11 県立岩瀬農業高等学校が鏡石町に移転
 - 4・27 市議会議員選挙(定数30)
 - 7・10 牡丹台水泳場が供用開始
 - 9・15 坂本鉄蔵氏が初の名誉市民に推戴
 - 9・29 財団法人坂本鉄蔵育英会が設立
- 1976 (昭和五一年)
 - 2・7 太田貞喜コレクションが市に寄贈
 - 4・1 仁井田公民館、仁井田幼稚園が開館・開園
 - 4・11 澤田三郎氏が市長無投票当選(通算4期目)
 - 5・24 上人壇廃寺跡の第4次発掘調査開始
 - 6・6 第1回市民「日環境美化運動」を実施
- 1977 (昭和五二年)
 - 1・12 公共下水道工事に着手
 - 3・30 下江持橋竣工式
 - 4・26 消防本部庁舎が新築移転
- 1978 (昭和五三年)
 - 10・15 西袋公民館が新築移転
 - 10・6 優良都市として、地方自治30周年記念式典で自治大臣賞を受賞
 - 11・1 福祉事務所と教育委員会事務局が旧消防庁舎跡に移転
 - 11・3 休日夜間急病診療所が開設
- 1979 (昭和五四年)
 - 3・8 西袋第一小学校新校舎が完成
 - 4・1 墓地公園を開設
 - 4・7 県立長沼高等学校が開校
 - 7・2 閑下人形が県重要無形民俗文化財に指定
 - 7・2 おはよう青空市場が開設
 - 8・20 第1回釈迦堂川花火大会を開催
 - 12・22 移動図書館車「うつみね号」運行開始
- 1980 (昭和五五年)
 - 1・1 「須賀川地方衛生処理組合」を「須賀川地方保健環境組合」に改称
 - 「休日夜間急病診療所」を「須賀川地方休日夜間急病診療所」に改称
 - 4・22 市議会議員選挙(定数30)
 - 6・1 東公民館が開館
 - 7・1 勤労青少年ホーム、武道館が開館
 - 9・23 牡丹台庭球場に夜間照明を設置
 - 10・13 市民温泉が仮開館
- 1981 (昭和五六年)
 - 12・24 クリスマス豪雪による雪害が発生
 - 3・20 第2次総合計画基本構想を策定
 - 5・23 文化センターが開館
 - 市民憲章、市の花「ぼたん」、市の木「あかまつ」を制定
 - 7・1 「老人福祉センター」を「老人憩いの家」に改称
 - 7・6 玉川村と合同で福島空港須賀川東設置促進協議会を設置
 - 8・1 老人福祉センターが完成
 - 8・22 台風第15号水害が発生
 - 8・23 福島空港誘致総決起大会
 - 12・12 青津保壽氏が刀装具628点を市に寄贈
- 1982 (昭和五七年)
 - 2・1 福島空港建設地が須賀川東に決定
 - 4・1 柏城小学校が開校
 - 空港建設対策本部を設置
 - 労働福祉会館が開館
 - 4・2 財団法人シルバー人材センターが発足
 - 9・7 福島空港と地域開発をすすめる会が発足
 - 9・12 台風第18号水害が発生
 - 9・13 浜田地区県営圃場整備事業竣工式
- 1983 (昭和五八年)
 - 4・1 共同福祉施設(市民温泉)が開館
 - 4・8 稲田幼稚園新園舎が完成
 - 市議会議員選挙(定数26)
 - 6・14 須賀川駅前土地区画整理事業に着手
- 1984 (昭和五九年)
 - 7・1 市民の森を開設
 - 10・23 第1回円谷マラソン大会を開催
 - 11・22 保土原地区県営圃場整備事業竣工式
- 1985 (昭和六〇年)
 - 3・1 市制施行30周年記念式典
 - 4・1 第一保育所が新築移転
 - 4・15 高木博氏が市長初当選
 - 5・29 横山土地区画整理事業が完了
 - 7・14 第一中学校新校舎が完成
 - 7・17 山寺土地区画整理事業に着手
 - 10・21 市制施行30周年記念市民植樹祭(282本の桜植樹)
 - 11・16 西川土地区画整理事業が完了
 - 12・6 岩瀬浄水場通水式
- 1986 (昭和六一年)
 - 4・1 「広報すかがわ」月一回、毎月一日発行
 - 4・27 市庁舎前市民の庭が完成、市民憲章碑除幕式
 - 8・28 福島空港が国の第5次空港整備五箇年計画に組み入れ決定
 - 9・11 澤田悌氏が名誉市民に推戴
- 1987 (昭和六二年)
 - 2・10 西袋中学校新校舎が完成
 - 3・27 白河・石川・岩瀬・田村・安積・安達六郡絵図が県重要文化財に指定
 - 4・1 明るい長寿社会を築く市民基金を創設
 - 4・26 市議会議員選挙(定数26)
 - 4・28 牡丹姫像除幕式
 - 5・5 異常湧水で約7600世帯が断水・減水
 - 「異常湧水対策本部」を設置
 - 7・14 集中豪雨水害が発生
 - 8・21 西川第二土地区画整理事業が完了
 - 10・28 上水道創設50周年記念式典
 - 12・18 諏訪町土地区画整理事業に着手
- 1988 (昭和六三年)
 - 4・1 大東公民館が新築移転
 - 県立清陵情報高等学校が開校
 - 県立須賀川第二高等学校が「県立安積第二高等学校須賀川校舎」に改編
 - 高木博氏が市長無投票当選(2期目)
 - 4・10 高木博氏が市長無投票当選(2期目)
 - 9・14 福島空港起工式
 - 9・27 農業災害対策本部(会書)を設置
 - 10・7 農業振興推進会議を設置
- 1989 (平成元年)
 - 4・1 仁井田小学校が新築移転
 - 芭蕉記念館、産業会館が開館
 - 4・8 心身障がい児通園施設「たけのこ園」が開園
 - 第1回すかがわ国際短編映画祭を開催
 - 7・10 翠ヶ丘公園が日本の都市公園1000選に選定
- 1990 (平成二年)
 - 1・1 市旗を制定
 - 土曜閉庁開始(第2・第4土曜日)
 - 3・31 大森小学校が新築移転
 - 4・1 ふれあいセンターが開館
 - 須賀川地方保健環境組合「新ごみ処理施設」が完成
 - 4・2 須賀川物産振興協会が発足
 - 4・28 乙字ヶ滝が「日本の滝100選」に選定
 - 11・27 須賀川物産振興協会が発足
- 1991 (平成三年)
 - 3・14 新総合計画2000基本構想を策定
 - 「頭脳立地法の集積促進地域」に指定
 - 3・29 中央公民館新館が開館
 - 4・1 4歳未満児の医療費無料化
 - 4・21 市議会議員選挙(定数26)
 - 8・1 第二中学校新校舎が完成
 - 9・30 福島空港旅客ターミナルビル工事に着手
 - 10・5 JR須賀川駅新駅舎が開業
 - 11・29 福島空港滑走路長2500mに延長決定
- 1992 (平成四年)
 - 2・14 稲田小学校校舎大規模改造工事が完成
 - 大東地域体育館が開館
 - 須賀川テクノカルチャーガーデン開発基本構想を発表
 - 4・1 コミュニティプラザを開設
 - 4・12 高木博氏が市長当選(3期目)
 - 7・27 下宿土地区画整理事業に着手
 - 10・1 公共下水道一部供用開始
- 1993 (平成五年)
 - 3・10 稲田中学校新校舎が完成
 - 3・20 新総合計画基本構想を策定
 - 3・31 太田貞喜の亜欧堂田舎コレクション(82点が県重要文化財に指定)
 - 4・1 保健センターを開設
 - 6・11 第一中学校新校舎が完成
 - 8・4 台風第10号水害(8.5集中豪雨水害)が発生(市初の「災害救助法」適用)
- 1994 (平成六年)
 - 4・1 須賀川駅前駅舎落成式(H3)
- 1995 (平成七年)
 - 4・1 松明太鼓初披露(H元)
- 1996 (平成八年)
 - 4・1 文化センター新築落成(S56)
- 1997 (平成九年)
 - 4・1 優良都市として自治大臣賞受賞披露式(S52)



須賀川駅前駅舎落成式(H3)



松明太鼓初披露(H元)



文化センター新築落成(S56)



優良都市として自治大臣賞受賞披露式(S52)

10・3 市役所完全週休2日制開始
11・16 デイサービスセンターを開設

一九九三(平成五年)

1・29 福島空港旅客ターミナルビルが完成
3・20 福島空港が札幌・名古屋・大阪の3路線で開港
4・1 仁井田、西袋、小塩江各地域体育館が開館
6・14 福島空港国際空港化促進協議会が設立
8・1 中国洛陽市と友好都市締結
8・20 西袋第一小学校が新築移転
10・29 牡丹園の牡丹が宝塚市へ約230年振りに里帰り

一九九四(平成六年)

2・1 須賀川駅前自転車等駐車場を開設
3・22 財団法人須賀川市スポーツ振興協会が設立
3・28 市制施行40周年記念式典
市の鳥「かわせみ」を制定
市マスコットキャラクター「ポーター」を発表
須賀川アリーナ落成式
3・31 七里ヶ浜遠望園が県重要文化財に指定
4・1 花と緑のまちづくり基金を創設
稲田、浜田各地域体育館が開館
大東児童クラブを開設
5・1 市民スポーツ広場を開設
6・1 泉田地区児童館整備事業竣工式

一九九五(平成七年)

4・1 市民スポーツ会館が開館
県立須賀川女子高等学校が「県立須賀川桐陽高等学校」に改称
4・4 障がい者小規模通所授産所「音田塚」を開設
市議会議員選挙(定数26)

4・28 フラワーセンターを開設
8・18 福島県博覧会の会場地に須賀川テック二方リサーチガーデン計画が決定
10・14 ふくしま国体秋季大会で銃剣道競技と卓球競技を開催(19日まで)
10月15日には天皇皇后両陛下行幸啓(卓球競技)

一九九六(平成八年)

2・6 北部都市整備事業に着手
3・1 J.A.すかがわ岩瀬が発足
3・4 新総合計画2000後期計画を策定
4・1 西袋児童クラブが開館
須賀川地方保健環境総合「新し尿処理施設」が稼働
4・14 高木博氏が市長無投票当選(4期目)
6・29 高木市長が死去
7・31 青少年親善訪中団が中国洛陽市を訪問
8・11 相楽新平氏が市長初当選

一九九七(平成九年)

3・27 第二保育所が新築移転
3・31 国営母畑地区総合農地開発事業が完了
4・1 駅前児童クラブが開館
資源物分別収集開始
6・5 稲地区児童館整備事業竣工式
6・25 小塩江中学校新校舎が完成
9・4 高齢者市政トキング事業がスタート
10・16 福島空港東側アクセス道が全線開通

一九九八(平成一〇年)

3・30 東部環状線(土人担下区)開通式
4・1 仁井田児童クラブが開館
介護保険準備室・うつくしま未来博推進室を設置

4・20 宮の杜「ニュータウン」竣工式
5・26 館ヶ岡地区児童館整備事業竣工式
6・1 松塚地区児童館整備事業竣工式
8・26 台風第4号水害(8月末豪雨水害)が発生
10・1 情報公開条例を施行
12・16 都市計画マスタープランを策定

一九九九年(平成一一)

2・4 すかがわ男女共同参画プラン21を策定
2・26 市ホームページを開設
3・29 市シンボルマーク「花のエンゼル」を制定
4・25 市議会議員選挙(定数26)
6・17 福島空港初の国際定期路線が開設
7・7 市「うつくしま未来博実行委員会」が設立
10・1 市民交流サロン「よりあい」を開設
12・1 「あきない広場」を開設

二〇〇〇(平成一二)

1・1 環境基本条例を施行
7・13 福島空港2500m滑走路全面供用開始
7・14 仁井田中学校新校舎が完成
7・16 相楽新平氏が市長無投票当選(2期目)
11・6 市「うつくしま未来博ボランティアセンター」が設立
11・30 ふくしま森の科学体験センターが完成
12・21 総合計画「しあわせアップ21」基本構想を策定

二〇〇一(平成一三)

4・1 稲田児童クラブが開館
財団法人ふくしま科学振興協会が設立



福島空港が開港(H5)



福島空港東側アクセス道全線開通(H9)

7・1 あきない広場アトリウム「まちなかプラザ」を開設

二〇〇四(平成一六年)

3・26 市制施行50周年記念式典
4・26 岩瀬村との法定合併協議会を設置
5・28 下宿土地画整理事業が完了
7・1 プラザを開設

二〇〇二(平成一四年)

1・1 ファミリーサポートセンターが発足
3・29 上人壇廃寺跡出土品が県重要文化財に指定
3・31 保健計画「健康アップ21」を策定
4・1 完全学校週5日制開始
7・1 市議会だより第1号発行
8・30 小塩江小学校新校舎が完成
10・30 地域情報化計画を策定

二〇〇三(平成一五年)

1・1 男女共同参画推進条例を施行
1・15 牡丹大使10人を委嘱
2・28 小塩江幼稚園新園舎が完成
4・1 小塩江児童クラブが開館
4・27 市議会議員選挙(定数26)
10・1 農作物異常気象災害対策本部を設置
11・21 西部2号雨水幹線分水路が完成
12・25 長沼町との法定合併協議会を設置

4・3 東部環状線が全線開通

二〇〇七(平成一九)

1・7 須賀川アリーナに「田合幸吉メモリアルホール」がオープン
3・31 市国民保護計画を策定
4・1 総合福祉センターが開館
市民との協働によるまちづくり指針を策定

二〇〇六(平成一八年)

2・1 地域新エネルギービジョンを策定
3・31 新生須賀川水環境整備計画が内閣府地域再生計画に認定
4・1 地域包括支援センター(中央、西部、東部、長沼・岩瀬)が開設
4・5 長沼東保育所が新築移転
11・19 第18回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会(ふくしま駅伝)で須賀川市チームが初優勝
12・21 総合計画「新生すかがわ2007」基本構想を策定

二〇〇五(平成一七年)

2・16 ISO14001認証を取得
4・1 須賀川市、長沼町、岩瀬村が合併
長沼支所・岩瀬支所を開所
5・28 下宿土地画整理事業が完了
5・30 大桑原地区児童館整備事業竣工式
12・5 渡辺家住宅主屋などが国登録有形文化財に指定
12・17 新橋竣工式

二〇〇八(平成二〇)

7・11 相楽新平氏が市長無投票当選(3期目)
8・26 須賀川市・長沼町合併協定調印式
10・19 須賀川市・岩瀬村合併協定調印式
11・19 浜尾遊水地が完成

二〇〇九(平成二一年)

2・2 乗合タクシーの運行開始
2・17 定額給付金対策室を設置
5・1 新型インフルエンザ対策本部を設置
10・1 こと医療費助成制度を開始(小・中・高6年生まで無料化)
11・2 須賀川地方休日夜間救急診療所平日夜間診療開始
12・22 第三小学校新校舎が完成

二〇一〇(平成二二年)

1・8 須賀川地方休日夜間救急診療所土曜日夜間診療開始
3・31 総合交通ビジョンを策定
7・10 「結の辻」を開設
9・27 工業製品認定制度を創設
10・1 大森小児童クラブを開設(全小学校学区の児童クラブ設置が完了)

二〇一一(平成二三)

3・11 午後2時46分、東日本震災が発生
公立岩瀬病院新病棟が稼働



ふくしま駅伝で須賀川市チームが悲願の初優勝(H18)



うつくしま未来博が開館(H13)

- 3・25 諏訪町土地区画整理事業が完了
- 4・1 食料・農業・農村基本条例を施行
- 5・1 牡丹会館が新築移転
- 5・9 市内循環バスの運行開始
- 8・29 放射性物質除染方針を策定
- 9・4 市議会議員選挙(定数28)
- 9・21 台風15号水害が発生(釈迦堂川、阿武隈川とも当時の過去最高水位を記録)
- 12・20 震災復興計画を策定

二〇二二(平成二四年)

- 1・1 原子力災害対策直轄室を設置
- 1・31 除染計画(第1版)を策定
- 2・17 大阪府豊中市と空港で結ぶ友好都市提携協定を締結
- 3・11 東日本大震災犠牲者追悼式
- 4・1 震災復興対策直轄室を設置
- 6・14 新庁舎建設基本計画を策定
- 6・29 仮設庁舎を文化センター駐車場に設置
- 7・22 橋本克也氏が市長無投票当選(3期目)
- 7・27 屋内子ども遊び場「すかがわキッズパーク」を開設
- 9・6 亜欧堂田善の銅版画作品などが国重要文化財に指定
- 12・26 第7次総合計画「まちづくりビジョン2013」基本構想を策定

二〇二三(平成二五年)

- 3・31 復興まちづくり事業計画を策定
- 5・2 株式会社「ぶる須賀川」が設立
- 5・5 「M78星雲 光の国」姉妹都市提携県が「造成宅地防災区域」(岩測字池下地内)を指定
- 7・7 JR須賀川駅前に市×M78星雲光の国「姉妹都市提携記念モノユメント」を設置

二〇一八(平成三〇年)

- 1・11 市民交流センター愛称ロゴを発表
- 1・29 中学生による初模擬議会
- 4・1 大黒池防災公園が供用開始
- 4・1 小中一貫教育校稲田学園が開校
- 4・6 市民交流センター落成式
- 8・21 須賀川二小児童クラブ館が開館
- 11・22 「松明あかし」が冬の季語として俳句歳時記に収載

二〇一九(平成三一年・令和元年)

- 1・11 市民交流センターが開館
- ウルトラFMが開局
- 1・23 「おひやま広域連携中核都市圏形成の連携協約を締結
- 3・18 国が第2期中心市街地活性化基本計画を認定
- 3・20 地域公共交通網形成計画を策定
- 4・1 市役所防災広場が供用開始
- 須賀川地方保健環境組合の「新こみ処理施設」が稼働
- 5・8 観光物産振興協会が発足
- 6・30 立地適正化計画を策定
- 8・11 市議会議員選挙(無投票・定数24)
- 10・1 保育施設などに通う3〜5歳児の給食費無償化
- 10・12 令和元年東日本台風(過去最大規模の水害発生)
- 10・13 令和元年東日本台風(過去最大規模の水害発生)

二〇二〇(令和二年)

- 2・21 新型コロナウイルス感染症対策本部を設置
- 2・26 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定
- 3・24 JR水郡線川東駅新駅舎が完成

- 7・31 主要地方道中野須賀川線袋田工区(袋田ハイパス)が開通
- 8・28 第1回子ども・子育て会議を開催
- 9・8 里橋(錦ヶ岡)竣工式
- 10・19 大東中学校新校舎が完成
- 11・10 神奈川県座間市と友好交流都市協定を締結
- 12・2 公立岩瀬病院新外来棟が完成

二〇二四(平成二六年)

- 2・4 芭蕉記念館が本町地内に移転
- 3・28 市制施行60周年記念式典
- 国が中心市街地活性化基本計画を認定
- 4・1 防災行政無線を開局(市内全域197カ所に設置)
- 6・20 国が創業支援事業計画を認定
- 7・7 翠ヶ丘公園(わんぱく広場)を改修
- 7・11 中央体育館が開館
- 8・1 水道お客さまセンターを開設
- 10・18 円谷幸吉メモリアルホールを改修

二〇二五(平成二七年)

- 1・21 地方創生・人口減少対策本部を設置
- 3・19 災害公営住宅「馬町団地」の入居開始
- 4・1 長沼東部「ミニミニセンター」が開館
- 4・2 山寺池公園全面供用開始
- 4・24 藤沼温泉「やまゆり荘」が営業再開
- 6・17 秋篠宮皇嗣同妃両殿下が御視察
- 7・1 災害公営住宅「東町団地」の入居開始
- 8・9 市議会議員選挙(定数24)
- 8・25 第1小学校新校舎が完成
- 須賀川一小児童クラブ館が開館
- 10・23 長沼中学校新校舎落成式
- 10・30 「人口ビジョン」まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定

二〇二二(令和三年)

- 4・16 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言対象区域に県全域が指定(5月14日解除)
- 5・31 阿武隈川堤防(浜尾遊水地西側)本復旧工事が完了
- 7・19 橋本克也氏が市長無投票当選(4期目)
- 9・1 地域外来(発熱外来)を開設
- 10・2 すかがわ観光物産館「flatto」が開館
- 10・9 風流のはじめ館が開館
- 10・26 稲田公民館が新築移転
- 11・3 特撮アーカイブセンターが開館

二〇二二(令和三年)

- 2・1 市公式LINE運用を開始
- 2・13 福島県沖を震源とする地震が発生
- 3・16 円谷英二氏、円谷幸吉氏を名誉市民に推戴
- 3・19 公共施設等個別施設計画を策定
- 3・27 東京2020オリンピック聖火リレー
- 4・6 義務教育学校稲田学園が開校
- 4・11 凍霜害が発生
- 4・27 新型コロナウイルススワッチンの集団接種を開始
- 5・11 接種を開始
- 6・15 降ひょう被害が発生
- 9・5 文化センターがリニューアルオープン
- 10・17 円谷幸吉メモリアルホールの展示内容を拡充

二〇二三(令和四年)

- 1・5 成年後見支援センターを開設
- 2・2 SDG推進協議会を設置
- 3・16 福島県沖を震源とする地震が発生

二〇二六(平成二八年)

- 1・20 マイナンバーカード交付開始
- 3・1 JA夢みなみが発足
- 3・18 第1小学校新校舎が完成
- 3・30 災害公営住宅「弘法団地」「山寺北団地」の入居開始(全1000戸の整備が完了)
- 4・1 認定こども園大東こども園が開園
- 町会所会館条例を施行
- 5・11 牡丹園発祥250年記念式典
- 6・17 須賀川駅前土地区画整理事業が完了
- 7・25 橋本克也氏が市長無投票当選(3期目)
- 11・28 市民交流センター愛称「tette」を発表

二〇二七(平成二九年)

- 1・18 藤沼ダムで試験湛水
- 3・10 公共施設等総合管理計画を策定
- 3・23 総合計画策定条例を制定
- 3・30 新庁舎落成式
- 4・1 5歳児の保育料・授業料を無償化
- 第三西袋児童クラブ館が開館
- 白鳩保育園が公私連携型保育所に移行
- 4・3 公立岩瀬病院産科婦人科外来診療を開始
- 4・24 藤沼ダム農業用水の供給再開
- 4・25 国道118号松塚バイパスが開通
- 5・8 新庁舎が開庁
- 6・1 市役所窓口でパスポート交付を開始
- 8・18 市消防団初の女性消防団員に辞令交付
- 10・1 山寺土地区画整理事業が完了
- 10・1 東西循環バスの土曜日運行を開始
- 12・21 第8次総合計画「まちづくりビジョン2018」を策定

二〇二三(令和五年)

- 4・1 長沼・岩瀬地域が「過疎地域」に指定
- おおば循環バスが運行開始
- 県立須賀川創英館高等学校が開校(県立須賀川高等学校と県立長沼高等学校が統合)
- 降ひょう被害が発生
- すかがわ特撮塾が開講
- 相澤晃記念杯藤沼湖駅伝競走・ロードレース大会初開催
- 9・19 過疎地域持続的発展計画を策定
- 9・29 パークPFI(公募設置管理制度)による県内初の飲食施設がオープン
- 11・3 第9次総合計画「まちづくりビジョン2023」を策定
- 1・8 二十歳のつどい初開催
- 3・31 牡丹キャンペーンクルー38年の歴史に幕(ミス牡丹時代も含めて)
- 4・1 教育支援センターを設置
- 文化都市すかがわ推進戦略本部を設置
- 須賀川アリーナを「円谷幸吉メモリアルアリーナ」に改称
- 4・4 凍霜害が発生
- 4・10 パークPFIによる温浴施設がオープン
- 4・28 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行
- 5・8 カーパーンニョートル宣言
- 5・29 国史跡上人壇麿寺跡整備基本計画を策定
- 6・30 市議会議員選挙(定数24)
- 8・6 公立岩瀬病院創立150周年記念式典
- 10・14



東京2020オリンピック聖火リレー(R3)



市民交流センターオープニングセレモニー(H31)

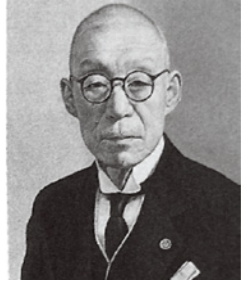


市×「M78星雲 光の国」姉妹都市提携記念モノユメント除幕式(H25)



文化センター駐車場に設置した仮設庁舎(H24)

【歴代須賀川市長】



初代
岡部 宗城
昭29.4.27～昭31.4.8



2代・4代
澤田 三郎
昭31.5.10～昭39.5.9
昭47.5.10～昭59.5.9



3代
鈴木 貞夫
昭39.5.10～昭47.5.9



5代
高木 博
昭59.5.10～平8.6.29



6代
相楽 新平
平8.8.11～平20.8.10

【歴代須賀川市議会正副議長】

議長

〔初代〕柳 甚四郎 (昭29.4.3～昭30.3.30)	〔初代〕樽 川 久松 (昭29.4.3～昭30.3.30)
〔2代〕佐藤 市郎 (昭30.4.7～昭34.3.30)	〔2代〕安 田 平七 (昭30.4.7～昭34.3.30)
〔3代〕羽田 徳太郎 (昭34.4.9～昭38.3.30)	〔3代〕鈴 木 正雄 (昭34.4.9～昭38.3.30)
〔4代〕三浦 一 (昭38.5.7～昭42.3.30)	〔4代〕橋 本 平男 (昭38.5.7～昭42.4.29)
〔5代〕服部 三寿 (昭42.5.4～昭46.4.29)	〔5代〕山 下 淡童 (昭42.5.4～昭46.4.29)
〔6代〕服部 三寿 (昭46.4.30～昭50.4.29)	〔6代〕森 下 新二 (昭46.4.30～昭50.4.29)
〔7代〕山下 淡童 (昭50.5.8～昭54.4.29)	〔7代〕遠 藤 輝雄 (昭50.5.8～昭54.4.29)
〔8代〕斎藤 種平 (昭54.5.2～昭58.4.29)	〔8代〕堀 川 正二 (昭54.5.2～昭58.4.29)
〔9代〕斎藤 明 (昭58.5.6～昭62.4.29)	〔9代〕有 馬 博二 (昭58.5.6～昭62.4.29)
〔10代〕斎藤 明 (昭62.5.8～平1.3.20)	〔10代〕深 谷 一由 (昭62.5.8～平1.3.20)
〔11代〕森 新二 (平1.3.20～平3.4.29)	〔11代〕阿 部 勝人 (平1.3.20～平3.4.29)
〔12代〕森 新二 (平3.5.9～平5.5.17)	〔12代〕阿 部 和寿 (平3.5.9～平5.5.17)
〔13代〕深谷 一由 (平5.5.17～平7.4.29)	〔13代〕岡 谷 久則 (平5.5.17～平7.4.29)
〔14代〕西間木 寅吉 (平7.5.10～平9.5.9)	〔14代〕関 根 吉郎 (平7.5.10～平9.5.9)
〔15代〕添田 勝人 (平9.5.9～平11.4.29)	〔15代〕宗 形 充三 (平9.5.9～平11.4.29)
〔16代〕添田 勝人 (平11.5.12～平13.5.14)	〔16代〕宗 形 充三 (平11.5.12～平13.5.14)
〔17代〕高橋 秀勝 (平13.5.14～平15.4.29)	〔17代〕水 野 敏夫 (平13.5.14～平15.4.29)
〔18代〕高橋 秀勝 (平15.5.12～平17.4.11)	〔18代〕水 野 敏夫 (平15.5.12～平17.4.11)
〔19代〕高橋 秀勝 (平17.4.11～平19.4.29)	〔19代〕水 野 敏夫 (平17.4.11～平19.4.29)
〔20代〕大越 彰 (平19.5.11～平21.5.12)	〔20代〕菊 地 忠男 (平19.5.11～平21.5.12)
〔21代〕渡辺 忠次 (平21.5.12～平23.9.3)	〔21代〕村 山 廣嗣 (平21.5.12～平23.9.3)
〔22代〕鈴木 忠夫 (平23.9.13～平25.9.5)	〔22代〕森 新男 (平23.9.13～平25.9.5)
〔23代〕市村 喜雄 (平25.9.5～平27.9.3)	〔23代〕鈴 木 正勝 (平25.9.5～平27.9.3)
〔24代〕広瀬 吉彦 (平27.9.15～平29.9.4)	〔24代〕五十嵐 伸 (平27.9.15～平29.9.4)
〔25代〕佐藤 瞭二 (平29.9.4～平1.9.3)	〔25代〕大 倉 雅志 (平29.9.4～平1.9.3)
〔26代〕五十嵐 伸 (平1.9.12～平3.9.6)	〔26代〕安 藤 聡 (平1.9.12～平3.9.6)
〔27代〕五十嵐 伸 (平3.9.6～平5.9.3)	〔27代〕安 藤 聡 (平3.9.6～平5.9.3)
〔28代〕大寺 正晃 (平5.9.14～)	〔28代〕溝 井 光夫 (平5.9.14～)

副議長

「共につくる 住み続けたいまちすかがわ」を目指して

須賀川市長 橋本克也



昭和29年に岩瀬郡須賀川町、浜田村、西袋村、稲田村と石川郡小塩江村の1町4カ村が合併し、市制がスタートしました。その翌年には岩瀬郡仁井田村が、昭和42年には石川郡大東村がそれぞれ合併し、市域が拡大しました。また、平成17年には、岩瀬郡長沼町、岩瀬村が合併し、現在の須賀川市が形成され、本年3月31日をもって市制施行70周年を迎えることとなりました。

市の歴史は古く、乙字ヶ滝遺跡から出土した旧石器は、はるか古からこの地が要衝として栄えていた証であり、鎌倉時代以降は城下町として、また、江戸時代は奥州街道屈指の宿場町として栄え、赤子養育事業等の町人による先進的な自治が行われるなど、自治によるまちづくりによって発展してまいりました。

先人たちが築きあげてきた礎は、本市にとってかけがえのない財産であり、市民の皆様が須賀川に抱く愛着や誇りとなって現代に受け継がれています。この「市民自治の精神」や「ふるさと須賀川への思い」を未来へと大きく育み、新たな須賀川へ紡いでいきます。

これまでの10年を振り返りますと、この期間は、平成23年に発生した東日本大震災から今まさに復旧・復興の期間であり、それに加えて、令和元年東日本台風や福島県沖地震、さらには、新型コロナウイルス感染症への対応など、本市にとって70年の歴史の中でも多くの困難に立ち向かった時期でありました。

震災などで培われた市民力や地域力をはじめ、多くの方々からのご支援、ご協力などに支えられながら、多くの困難を乗り越え、特に、復興のシンボルとして新庁舎の開庁や、市民文化復興のシンボルとしての市民交流センターのオープンなど、震災からの創造的復興を目指した様々な事業が目に見える形で進んでまいりました。

現在、創造的復興からの「次の10年」という新たなステージに歩みを進めており、時代の潮流に合わせたSDGsや公民連携をはじめ、防災・減災対策などの各種施策に全力で取り組みながら、第9次総合計画「須賀川市まちづくりビジョン2023」の将来都市像である「共につくる 住み続けたいまち すかがわ」を目指しています。

今回、先人たちが英知や情熱を結集し、脈々と築いてきた尊い歩みを振り返るとともに、未来への道標として記念誌を発行いたしました。本市の発展にご尽力いただきました皆様に、改めて敬意を表するとともに、今後とも引き続き、市勢伸展のためにご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和6(2024)年3月



表紙コンセプト

一般的な記念誌のイメージを払拭し、市民の皆さんが気軽に手に取って読んでもらえるようにフリーペーパー風の軽快なデザインとしました。須賀川市の歳時記、観光などをモチーフに、それらが市民と手を携え、輪になっている様子をオリジナルイラストで表現。カラーリングは青色と黄色の2色を用い、市民の皆さんにとって親和性のあるものとししました。

須賀川市制施行70周年記念誌

発行日

令和6年3月28日

編集

福島県須賀川市

〒962-8601 福島県須賀川市八幡町135番地

電話 0248-75-1111(代)

印刷

トキワ印刷株式会社